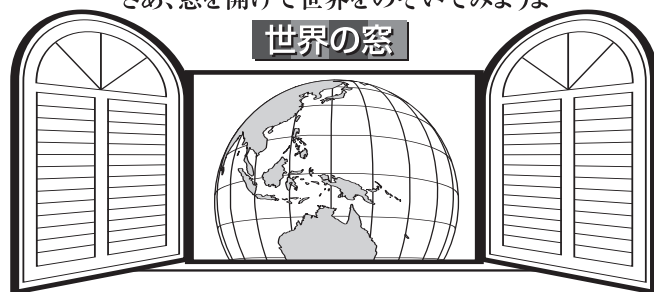


World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



Vol.46

スウェーデン



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」!

案内役は、国際交流員のアダム・ラビエールさんとジェニファー・ステイントンさんです。

Hello! アダムです。はるか北の遠く離れた所に、ほぼ一年中地面が氷と雪で覆われている北極圏の寒くて凍結した地域があります。そこには地球上ほかの場所とは違ったホテルがあります。今回はその「アイスホテル」について紹介します。

毎年夏にそのホテルは消滅し、そして毎年冬に世界中から彫刻家たちが、ホテルを再建するために一斉にやって来ます。人々がこの凍るように寒いホテルに一泊するには約6万円かかり、そこには氷で作られたベッドや家具や壁があります。そのホテルはスウェーデンのユッカサルビアイスホテルといいます。スウェーデンの北部を横切って流れるトルネ川は、ヨーロッパのもっとも美しく手つかずの荒野を通っています。夏に旅行者たちは、ほぼ24時間日が照っている(白夜)ため、戸外のレクリエーションを楽しみます。



そして冬がやってきて日中が長い暗闇に変化すると、世界最高の氷の彫刻家たちは、トルネ川からの透明で澄んだ水を利用して、実物大のホテルや目を見張るような氷の芸術作品を造ります。

意外にも**アイスホテル**の発想は、1979年にその地域を訪れた日本人の氷の彫刻家によって考えられました。その日本人の男性はユッカサルビの小さな村でいくつかの氷の彫刻作品を作り、そして地元の人々は豊富な氷の独創的な利用方法に影響を受けました。地元の人々は、共存するにはあまりにも過酷で困難な氷という物質からでも、美しい彫刻作品が造り出されるということを認識したのです。次の年フランスから来た一人の芸術家が、内部にいくつかの氷の彫刻作品がある大きなドーム型の家を造りました。人々は外から氷を通して入ってくる輝く青い光に驚きました。そし



て彫刻家と数人の地元のひとたちがドームの中で、トナカイの皮を敷いて厚い寝袋の中で眠った後に、アイスホテルの発想が生まれました。



そして**28年後**の今日、アイスホテルは空想の漫画の世界のもののように見えます。そこにはレストラン、アイスパバー、ラウンジ、ロビーそしておよそ80の客室があります。

そのホテルには氷の教会さえもあり、お客はそこで光輝く精巧に装飾された氷の壁に囲まれて結婚をすることができます。ホテルの中でお客はトナカイの毛皮でできたスリッパを履いて雪で覆われた床を歩きます。アイスパバーでは、氷の塊から彫られたカップに飲み物が注がれて出され、いす、テーブル、壁はすべて氷で作られています。アイスパバーには冷蔵庫は必要ではありません。ホテル内の温度はおおよそ摂氏マイナス6度だからです。ホテルのすべての部屋は異なっており、世界中から来た有名な芸術家によって入念に造られています。そのためトナカイの毛皮で覆われた氷のベッドで寝る前に、宿泊客たちはホテル内を見学し、地球上でもっとも珍しくて壊れやすい芸術作品をいくつか見ることができます。



毎年冬になると、アイスホテルそのものが美しく有名な芸術作品となります。さもないければ北極圏の中央部にあるその村は荒廃してしまいます。そして毎年春になり長く続いた暗闇が終わると、太陽がユッカサルビの人々を温め、アイスホテルはゆっくりと地面に溶けていき、ふるさとしてあるトルネ川に幸せそうに帰っていくのです。